

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4271401467		
法人名	有限会社 ロ加メディカルサービス		
事業所名	グループホーム たちばな	ユニット名	A棟
所在地	長崎県南島原市加津佐町己2151番地5		
自己評価作成日	2023年 9月 25日	評価結果 市町村受理日	2023年 12月 1日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報 リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php?action_kouhyou_pref_topiievosyo_index=true
--------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般財団法人 福祉サービス評価機構		
所在地	福岡市中央区薬院4-3-7 フローラ薬院2F		
訪問調査日	2023年 11月 2日	評価確定日	2023年 11月 22日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>入居者様の意思を尊重し、出来る限りその日その時したい事を自由にしていただけるように心がけています。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>“グループホームたちばな”は2つのユニットがある。Aユニット(玄関左)は民家改築、Bユニット(玄関右)は増築した建物で、両ユニットの間のベランダで「めだか」の餌やりができる。玄関外のベンチで日向ぼっこをしたり、周囲を散歩すると共に、コロナ禍以降も感染対策を行いながら、季節の花見や紅葉見物(雲仙)、初詣等にお連れしている。2023年は温泉神社のお祭りや地域の花火大会が再開し、入居者の方々と楽しむことができた。受診の帰りに車窓から家族と対面したり、海を眺めながらのドライブ、買物等を楽しみ、家族と自宅で食事をされたり、近くの定食屋で食事をされたり、少しずつコロナ前の状況に戻ってきている。地域の自治会の方等から家庭菜園の野菜を頂くこともあり、有難く思っており、入居者の方々も一緒に地域の除草作業、ゴミ拾いに参加し、地域の一員としての役割を担われている。職員体制が限られている中、管理者、主任等を中心に職員が結束し、入居者の方々の笑顔を引き出す取り組みを続けてこられた。主治医、ホームの看護職員、訪問看護師との連携も強化し、理念にある「健康で明るい、自分らしい生活を支援します」に繋げている。今後も更に家族との情報交換を深め、体調変化等の報告の在り方を検討していく予定である。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓ 該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓ 該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目: 23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目: 9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらい 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目: 18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目: 2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目: 38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目: 4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目: 36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目: 11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目: 49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが ○ 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目: 30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目: 28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	当施設の理念をもとに、家庭的な環境にて入居者様が地域の中でその人らしく生活する事が出来るよう支援している。	運営方針の中に「加齢に伴う心身の障害を緩和し、健康で明るい自分らしい生活を支援します」という表現があり、職員は日々の健康管理を行うと共に、生活リハビリや歌、散歩、歩行訓練等もされている。ご自分の好きなことを、ご自分のペースでできるよう、ご本人の要望を叶えられるように努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に参加し、入居者様と共に散歩をかねて地域の方々と交流をしている。(近所の花壇・温室を見学させていただいたりしている)	コロナ禍も自治会長等と情報交換を行い、以前ハーモニカ演奏に来られていた方等が野菜を差し入れて下さる。ご利用者も一緒に地域の除草作業、ゴミ拾いに参加することができた。温泉神社のお祭りも再開し、舞の見学や神輿見学に参加し、準備から関わることができ、子ども達と交流することもできた。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議や自治会の会合にて、当施設の理解は進んでおり、介護保険利用の相談もある。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は市職員様、利用者家族様、地域住民等で構成され、2か月に1回開催している。会議では、現状報告、行事実施報告、外部評価報告等をもとに話し合い、意見等を議事録に残し、サービスの向上に活かしている。	2021年7月は通常開催できたが、それ以外のご利用者と職員で会議をしている。他の参加者とは電話で情報交換し、自治会長は直接お会いして情報交換している。コロナ関連・身体拘束ゼロの報告・行事内容・地域情報等の共有を続けており、その内容を含めて議事録を作成し、参加者に配布している。自己評価(外部評価)結果も報告し、「目標達成計画について、達成できるよう努めてほしい」等のご意見を頂いた。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に市の担当者様に参加してもらい会議において意見交換を図り、事業所内の状況を報告し、意見をいただくことによりサービスの質の向上につなげるよう努めている。	地域包括の方々とは空室等の情報交換を行っている。内容に応じて広域連合や市役所(支所)に相談し、アドバイスを頂いている。提出書類等の内容も相談し、広報誌の掲示もお願いしている。広域連合のホームページを随時確認し、介護保険情報や厚労省関連の通知を参考にしている。	

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束について各職員は理解しており、身体拘束のないケアを実施している。玄関施錠については交通量の多い国道に面している為、職員の見守り人員が不足する時（受診送迎等）一時的に施錠する事もある。	「身体拘束はしない」方針であり、運営推進会議で身体拘束廃止委員会を行い、“身体拘束ゼロ”の報告を続けている。年度内に虐待防止委員会も行う予定であり、記録の在り方も検討予定である。玄関の一時施錠を行う時はあるが、裏口は開いており、職員と外出できる環境は作られている。転倒リスクを加味しながらも、ご本人のお力を発揮して生活できるよう努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止関連等の勉強会の参加にて各職員が虐待防止について理解を深め、職場に活かしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者は成年後見制度等の知識はあるが、利用した機会等は無い。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約前に契約する意味と内容について利用者様や家族様が理解し、納得できるようわかりやすい言葉で説明をおこなうよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	公的窓口を紹介するとともに当施設へ気軽に意見を言ってもらえる環境を作り、各家族様へ周知徹底を図る。	管理者が手紙を毎月書き、写真も同封して家族に郵送（手渡し）している。コロナ禍は面会が減っているが、玄関先や居室の窓越しで面会して頂き、遠方の方はリモート面会を行うこともできている。今後も更に家族との情報交換を密に行い、家族が意見や要望をより伝えられる環境を作りたいと思っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングや申し送りノートを活用し各職員の意見を集め、業務に反映させている。	人員体制が限られる中、ケーキ作りや料理、レク、飾り付けが上手など、職員の得意分野を発揮されている。季節行事も大切にされており、ご利用者の笑顔に繋げている。20項目の業務改善シートを職員が自己評価し、業務改善等に繋がる場合もある。法人本部の課長も人員体制を理解し、応援に入って下さり、委員会活動も継続している。今後も記録を充実させると共に、各種書類の整備を行っていく予定である。	

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格等にて手当等を支給する等、職員のやりがい・向上心を持てるよう務めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部及び内部の研修に参加実績を記録し、評価をおこなっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修会への積極的参加を促し、交流機会へとつなげている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	訴えのある本人の言葉を拝聴して受容し、本人の不安を取り除くよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談時に、家族関係等の情報、不安な点を伺い、それらにアドバイスを提示し、安心していただけるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居手続き時に本人様・家族様より現状で困っていること・要望等を伺い、施設で出来ることは実施するという対応をとっている。他のサービス利用が可能な場合は関係機関と協力をはかっている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様を利用者という立場だけではなく、生活を共にするもの・人生の先輩として共に過ごし支えあう関係を作っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は入居者様の家族様とのを大切にし、共に入居者様を支えていけるよう努めている。		

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者様とその知人が連絡出来る様に電話にて会話されたり、知人来訪時に気軽に面会して頂ける旨お伝えし、関係の継続に努めている。	地元の方が多く、馴染みの方と過ごされている方もおられる。2023年は温泉神社の祭りに参加でき、地元の方と交流することができた。自宅を心配される方もおられ、自宅や家族の仕事場にお連れし、家族との時間を楽しまれた方や、馴染みの美容室の方が送迎して下さる方、知人（老人会の方）の訪問があり、玄関先で団欒される方もおられる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士入居前から交流がある人もおり、食堂等の共有スペースおよび個室にて入居者様同士の交流がある。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居され、近隣施設・病院へ移られた利用者様には定期的に面会に伺い、これまでの関係を大切にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人様、もしくはその家族様より暮らしの希望や意向の把握をおこない、本人様がしたいことを極力できるような環境をつくっている。	日々の生活の中でゆっくりと会話を楽しみ、ご本人のできる事やお好きな事を伺っている。入居者個々の「クーラーの風が当たらないようにしたい」「家事をしたい」「花火大会に行きたい」等の願いを叶えるように努めている。意思疎通が難しい方にも日々声かけし、表情やしぐさを丁寧に理解するようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人様、もしくはその家族様より生活歴等の情報を収集し、より良いサービスの提供を出来るよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者様の一日の生活リズムを観察・記録することにより、現状の把握に努めている。		

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人様・家族様と話し合い、情報を収集し、現状に即した介護計画を立てている。	入居者の方々の生活歴・生活リズム・嗜好等と共に、ケアチェック表を改良し、「できること」「できそうごと」「要望」等を把握している。利用調査票にADL（寝返り・起き上がり・立ち上がり等）やIADL（調理等）の有する能力や介助理由等も増やしてこられ、課題等を職員間で共有し、計画作成担当者が計画の原案を作成し、職員間で検討している。医師、看護師、理学療法士の意見も参考に、日々のケアに活かしている。	①今後もアセスメントで把握できた内容を、1表（意向等）・2表・3表に詳細なケア内容を記載し、日々のケアと事故予防などに繋げていく予定である。 ②コロナ禍、家族との話し合いが十分にできない状況であったが、今後は更に家族との担当者会議（面会時や電話等）を増やし、家族との話し合いや体調変化時の連絡を密に行う予定である。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者様の日常の状態を常に記録し、職員間で情報共有をおこないながら最適なケアを模索していくよう努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	なるべく本人様の意思に沿ったケアの実施に取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	当施設の近隣に住んでいた方が多く、自治会の行事等には職員と共に参加し、関係が維持できるように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的に協力病院をかかりつけ医にして頂いているが、専門的な受診等は家族様と話し合い、適切な医療を受けられるよう支援している。	受診時は法人本部の職員が応援に入り、ホームの看護職員との協力体制もできており、口之津病院からの往診（月2回）を受けることもできる。遠方の病院は管理者と家族が受診同行し、受診結果を共有している。訪問看護師との情報交換も毎週行い、24時間の連携（電話又は訪問）もできている。異常の早期発見に努め、緊急時は協力医療機関に受診でき、認知症専門医への紹介も行われる。今後も転倒や内服・食事の変更等、家族への報告を密に行う予定である。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師と協力し、日常的に助言・アドバイスして頂いている。		

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力医療機関や他の施設と情報交換し適切なケアがおこなえるよう関係作りはできている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですべてを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に終末期に向けた指針の説明をおこない家族様に同意して頂いている。しかし、実際重度化されても施設にて生活していただける支援をおこない、そのうち病院へ転院とされている状況となっている。	母体病院との医療連携が安心で入居される方も多い。「看取りに関する指針」を作成し、終末期の不安を取り除くケアに努めているが、24時間の往診体制が無く、終末期に食事摂取ができなくなった場合は転院の可能性のある事を入居時に説明している。体調変化に応じて家族と話し合い、最適な生活場所を検討すると共に、転院ぎりぎりまで誠心誠意のケアをさせて頂いている。今後も重度化・終末期ケアの研修を続けていく予定である。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	初期対応のマニュアルを作成し緊急時に備えている。今後も研修等で知識を深めていく必要がある。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	スプリンクラー・自動通報装置を設置しており、避難誘導の協力体制は職員間・自治会共にできている。職員の防災意識を高めるよう努める。	2月は消火訓練、心肺蘇生法訓練（消防署から救命救急の人形を借りて職員間で模擬訓練）、AED使用訓練を行い、8月は消防設備点検、消防避難訓練、消火訓練、自動通報装置の説明がしている。水や非常食、発電機（10時間作動）等を準備し、災害時は法人本部に避難できる。BCP（災害時事業継続計画）も作成しており、今後も協力医療機関・系列施設と連携するための話し合いを行う予定である。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者のプライバシーを損ねないような声掛け、気配りをおこなっているが、時に適さない言葉も出るときがあり、常に意識する必要があると思う。	入居者の方々の尊厳を傷つけることのないよう、声かけ等の配慮をしている。ご本人の気持ちに寄り添い、優しく、わかりやすい声かけに努めると共に、ご本人の意思決定を大切にしたい声かけが行われている。希望に応じて入浴時の同性介助も行われている。	

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様の意思を尊重し、なるべく利用者を選択肢をえらんでもらえるようなケアをおこなっている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様の意思を尊重し、自分のしたいことができるような環境を作るよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	希望される方にはマニキュア等のおしゃれを行うなど、身だしなみを整える支援を行っている。化粧品など本人様が所持されている物を使うように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員と入居者様が協働して食事を作成することで入居者様の生きがい、楽しみが満たされていると思われる。	2023年夏から、昼食・夕食は宅配食を利用している。加熱、盛り付け、トロミ「中トロ」等は職員が行い、入居者の方々も盛り付け、配膳、下膳、食器洗い等をして下さる。朝食はAユニットの早出が担当し、昼食や夕食の際も地域の方からの野菜や畑の野菜（ミニトマト等）を添えている。苦手な食材（わかめ等）を把握し、昼食・夕食時も別の献立に変更している。ユニット個々の誕生会では、美味しい料理とともに、管理者がケーキを手作りしている。	入居者の方々と干し柿づくりなどを楽しまれている。今後も料理をする機会を定期的に作り、入居者の方々の培ってこられた特技や「生きがい」に活かしていく予定である。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者様それぞれに食事の状態を考え、お粥や刻み食等食べやすい状態で提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを実施している。自力で口腔ケアができない入居者様は職員が介助をおこない実施している。		

自己	外部		自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定期的にお声掛け・トイレ誘導することにより、失敗の回数を減らすよう努めている。今後も継続的に支援をおこなう。	下着を着用し、排泄が自立している方も複数おられ、必要に応じて誘導等を行い、失禁が減った方もおられる。パッドの大きさも個別に検討し、皮膚に負担を与えないケアを心がけ、褥瘡予防に努めている。管理者や看護職員が主となり、おむつの当て方の指導を職員に行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便回数の記録をおこない、状況により訪問看護師と相談し、服薬や摘便等の対応をとることもある。			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴希望があれば入浴日でなくても入浴できるよう支援しているが、時間帯までは融通できていない。	Aユニットの浴槽を利用している。個別ケアを行い、入浴時は会話を楽しまれ、菖蒲湯や柚子湯も行われている。入浴を拒まれる方は声かけを工夫し、必要時は清拭や足浴、手浴等で対応している。できる範囲は洗って頂き、心身状況に応じて2人介助も行われ、希望に応じて同性介助をしている。今後は機械浴の導入を検討している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	極力本人様の休息したいように支援している。昼夜逆転等が起きないように時々お声掛けをして家事のお手伝いをお願いする等、日常生活習慣を続けていただけるよう努めている。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	協力病院の医師の指導の下、服用薬の用法・容量に注意し、服用後の状態変化があった場合はすみやかに病院へ電話・受診する体制が出来ている。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常生活の中で、食事作り、配膳等積極的に参加してもらい役割を持ってもらう事で生活に張り合いが出るように支援している。			

自己	外部	外部評価			
		自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	入居者の希望に添えるよう職員と共に外出し、買い物ができる機会を作っている。	外のベンチに座って日向ぼっこしたり、周囲を散歩したり、季節の花見や紅葉見物（雲仙）、若宮神社・八幡様等の初詣、温泉神社のお祭り、花火大会にお連れしている。受診の帰りに車窓から家族と対面したり、海を眺めながらのドライブ、買物等を楽しまれている。家族と自宅で昼食をされたり、近くの定食屋で食事をされたり、少しずつコロナ前の状況に戻ってきている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的にお小遣い等は事務所にて管理しているが、家族様との相談の上で、本人様が安心できるよう財布・金銭を個人でもって頂いている方もいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	当施設の備えつけの電話にて知人・友人と連絡を取られる方や、携帯電話を所持され家族と連絡を取られる方もいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	環境面においては現状の設備を用いて最良の快適な環境を作るよう努めている。	リビング（食堂）は明るく、新聞を読まれる方もおられる。2022年に除菌ができる加湿器を購入し、温湿度計で調整を行い、換気等も努めている。リビングには豆茶、麦茶を準備し、コーヒーや緑茶を飲むこともできる。ご利用者同士の関係性もあり、リビングの座席も配慮し、朝から体操や歌、足浴等が行われている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	各入居者様の個室にて一人になる居場所がある。また、利用者同士で居室に招待し談笑される場面もみられる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に、本人様がいままで使ってこられた湯のみ等の生活用品は、できるだけ持参して頂き、本人様の以前の生活がそのまま継続できるように配慮している。	全ての居室に電動ベッドを準備し、ご本人が落ち着く場所にベッド等を配置している。各居室の洗面台で歯磨きをされたり、タオルを洗われる方もおられ、職員が仕上げ洗いをされている。家族の写真や植物を飾られる方、テレビや冷蔵庫、日記帳やペン等を愛用する方、会報誌を家族が持参し、読まれる方もおられる。	

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室より共用スペースの食堂、もしくは玄関に通じる経路には手すりが備えてあり自立した生活が送れるように工夫してある。		